

各 位



平成 21 年 11 月 13 日

会社名 小倉クラッチ株式会社
代表者名 代表取締役社長 小倉康宏
(J A S D A Q ・ コード 6 4 0 8)
問合せ先 常務取締役 河内正美

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社の連結子会社の清算にともない特別損失が発生いたしますので、その内容をお知らせします。
また、これにともない最近の業績の動向等を踏まえ、平成21年5月15日の決算発表時に公表した平成22年3月期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)の第2四半期累計期間及び通期の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

当社の連結子会社である小倉テクノ株式会社(所在地:茨城県北茨城市・議決権所有割合66.64%)は当社にクラッチ部品の納入を行なってまいりました。しかし、ここ数年は経営環境が厳しく、更に昨年来の世界大不況の影響を受け、海外関係の受注が大幅に減少しました。当初は短期間での受注回復を見込んでおりましたが、今期に入っても受注が思わしくなく、現状では、早期に収益を改善し事業を継続していくことは困難と判断し、当該連結子会社を解散及び清算することを決議いたしました。
これにともない、平成22年3月期第2四半期において関係会社整理損失引当金321百万円を繰入する必要が生じたのでお知らせいたします。

2. 平成22年3月期第2四半期累計期間 連結業績予想値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A) (21年5月15日発表)	15,060	△ 630	△ 450	△ 475	△ 31.66円
今回修正予想(B)	13,931	△ 1,202	△ 994	△ 1,155	△ 77.02円
増減額(B-A)	△ 1,129	△ 572	△ 544	△ 680	—
増減率(%)	△ 7.5	—	—	—	—
(ご参考) 前期(21年3月期)実績	25,401	541	525	157	10.48円

3. 平成22年3月期通期連結業績予想値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A) (21年5月15日発表)	32,000	△ 745	△ 345	△ 420	△ 27.99円
今回修正予想(B)	31,300	△ 1,100	△ 930	△ 1,200	△ 80.00円
増減額(B-A)	△ 700	△ 355	△ 585	△ 780	—
増減率(%)	△ 2.2	—	—	—	—
(ご参考) 前期(21年3月期)実績	41,749	△ 658	△ 1,846	△ 2,803	△ 186.81円

4. 平成22年3月期第2四半期累計期間 個別業績予想値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)
(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想 (A) (21年5月15日 発表)	10,725	△ 195	△ 170	△ 175	△ 11.66円
今回修正予想 (B)	10,177	△ 531	△ 661	△ 752	△ 50.18円
増減額 (B - A)	△ 548	△ 336	△ 491	△ 577	—
増減率 (%)	△ 5.1	—	—	—	—
(ご参考) 前期 (21年3月期) 実績	18,808	240	288	12	△ 0.81円

5. 平成22年3月期通期個別業績予想値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)
(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A) (21年5月15日 発表)	23,340	100	100	85	5.66円
今回修正予想 (B)	23,300	△ 515	△ 470	△ 800	△ 53.34円
増減額 (B - A)	△ 40	△ 615	△ 570	△ 885	—
増減率 (%)	△ 0.2	—	—	—	—
(ご参考) 前期 (21年3月期) 実績	30,396	△ 486	△ 997	△ 1,799	△ 119.94円

6. 修正の理由

(1) 連結業績予想

第2四半期累計期間

平成22年度3月期第2四半期累計期間における世界経済は、新興国を中心に明るい兆しが見えはじめていますが、先進国経済は落込みが大きく、特に、米国を中心とした自動車業界や自動車業界に大きく依存している機械関連業界等は、大幅な需要の減少を余儀なくされました。このような状況下、当社グループにおいては日本・米国・欧州の売上が大きく減少し、人件費等の固定費を中心に大幅な経費削減に努めてまいりましたが、売上減少により固定費を吸収できず、米国子会社の貸倒引当金160百万円の計上もあり、営業損失、経常損失、四半期純損失が前回予想を大幅に上回る見通しとなりました。また、上記記載のとおり、特別損失として関係会社整理損失引当金を繰入しております。

通期

通期におきましては、第3四半期以降の売上回復にともない、堅調な中国をはじめとし、日米を中心に収益は改善される見込みであります。第2四半期累計期間の損失を挽回するまでには至らず、第3四半期以降も厳しい状況が続くものと思われまます。

(2) 個別業績予想

第2四半期累計期間

個別業績予想の修正理由は連結業績予想の修正理由と概ね同じであります。9月以降の対ドル為替レートが急激な円高に振れたことより、外貨建売掛債権に為替差損が1億円ほど発生しております。また、上記記載の子会社解散による特別損失212百万円を計上しております。

通期

個別業績の通期予測につきましては、売上の回復が見込まれますので、第3四半期以降の営業利益、経常利益は黒字転換を見込んでおります。第2四半期累計期間の損失を埋めきれず、第3四半期以降も厳しい状況が続くものと思われまます。当期純利益につきましては、子会社株式の減損処理2億円等を見込むため上記の数値となる見込であります。

7. 組織変更について

早期業績の立直しを図り、将来の事業展開に向けて業務の効率化並びに迅速化を図るため、一般クラッチ生産本部と一般クラッチ技術本部の機能、権限、責任範囲を見直し、間接部門のスリム化による少数精鋭、適材適所を機軸とした組織に11月20日に変更を行ないまます。

以 上